



立秋とは名ばかりの暑さで、ニイニイゼミの声が一体に広がっていました。飛び回る昆虫は少なく、水分を補給しながら日陰を拾って歩きました。百年の森では成虫になったバッタが増え、まだ幼虫のバッタなどがよく見られました。ザーと聞こえていたセミの声は昼近くなるとアブラゼミに変わっていきました。



ツユクサ

池沿いに積んである石のブロックの隙間から、暑さをものともせず咲いていました。緑の葉にこの日の青空にも負けない青い花びらがよく映えていました。蛍草ともよばれるそうです。



ヒヨドリバナ

土手の上で背を伸ばしていました。茎の先の方に小さな花が集まって咲きます。これに似た花にフジバカマ(中国原産)があります。



ヒルガオ

池沿いのブロックを被うように生育し、夏の間中咲きます。花が咲いても結実しないことがほとんどで、地下茎で繁殖します。花や蕾は食用になるそうです。



サルスベリ(中国原産)



花卉(左)は6枚が普通で、一つ一つに柄がついています。おしべ先は黄色いものと茶色いものがあります。



シオカラトンボの口

頭部を横から撮ったら、たまたま口を開け、大顎(←)が映りました。先がとがった鋭い大顎です。飛びながら捕まえた獲物をこれでバリバリと食べているのでしょね。肉食性の昆虫の面目躍如といったところです。



←(右が雄、左が雌)



←シラホシコゲチャハエトリの雌

体長2ミリの小さなハエトリグモです。見つかったのは雌。雄(右)を見ると名前の意味するところが分かります。庭先でも見られるハエトリグモで、壁を歩いているのを見ることがあります。



雄



クロバネツリアブ

名前は翅の黒い吊りアブで、空中に静止する姿を現しています。捕まえてよく見ようと容器に入れたら、腹の裏側におもしろい模様が見えました。腹部に白い十字模様であったのです。何のための模様なのでしょう、不思議です。この仲間にはハナバチなどの蛹に寄生するようです。



シロテンハナムグリ(2色)

シラカシの実に集まって来ているように見えました。



オスクロハエトリ

←これも雄とは似ても似つかない雌



カオマダラクサカゲロウ

クモの巣に引っかかっていました



テングスケバ

幼虫

体長6ミリの頭部の先端が天狗の鼻のように突き出しています。ヨコバイの仲間では植物の汁を吸っています。

植物 ハルシャギク、ツユクサ、ヘクソカズラ、ニガナ、キバナノマツバニンジン、ヒメジョオン、メリケンムグラ、ヒルガオ、ヒメムカシヨモギ、ヒメクグ、テンツキ、ヤマイ、ヒヨドリバナ、タチスズメノヒエ、アメリカスズメノヒエ、キンシバイ、ムクゲ、モミジアオイ、ノウゼンカズラ、サルスベリ、ハギ、シモツケ、クチナシ実、コムラサキ実、オニグルミ目につくまで大きくなる、イソノキ実(緑・赤・黒)、ヤマハゼ実、ネズ実、シラカシ実、コナラ実、シャシャンボ実、ナラガシワ実(葉柄あり) **昆虫** キチョウ、ナミアゲハ、トサカフトメイガ幼虫(オニグルミ)、クルマバッタ、ショウリヨウバッタ、ショウリヨウバッタモドキ、コバネイナゴ、マダラバッタ、ハラヒシバッタ、バッタ類幼虫(クルマバッタモドキ、ツチイナゴ、コバネイナゴ、トノサマバッタ、ツユムシ、マツムシ、エンマコオロギ、カマキリ)、クロバネツリアブ、カオマダラクサカゲロウ、シロテンハナムグリ(緑色・銅金色)がシラカシの実に来ていた、コイチャコガネ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、クマゼミ(声)、ホシハラビロヘリカメムシ幼虫、ヒゲナガカメムシ、テングスケバと幼虫、シオカラトンボ、セグロアシナガバチ、タイワンタケクマバチ、 **クモ** ジョロウグモ幼体、アシナガグモ類、ナガコガネグモ、チュウガタシロカネグモ、クサグモの巣のみ、シラホシコゲチャハエトリ、オスクロハエトリ、 **鳥・その他** スズメ、カワウ、ニゴイ、アオコ(ラン藻の仲間が多いようです) **次回は9月8日(木)、午前9時30分~12時、水資源機構P前集合、参加費100円**